

横路福祉社会会報

〒七三七〇一三三
呉市広横路四丁目一四六
横路福祉社会
編集発行人
神垣 光徳
(0823)7118197

「新時代の幕開け」

社会福祉法人 横路福祉社会
理事長 神垣 光徳

本年度の4月から子ども・子育て支援新制度がスタートした。出産率の減少、核家族化の進展等により、女性の社会進出が進む中で子どもや子育てを巡る環境は大きく変化してきている。これを受け、文部科学省所管の幼稚園（3歳以上の子どもが対象）と厚生労働省所管の保育所（0歳から5歳の就学前の保育に欠ける子どもが対象）に加えて、認定こども園や小規模保育事業と施設類型が異なる新時代の幕開けを迎えることとなった。

社会福祉法人 横路福祉社会 横路保育所としては、昭和24年、地域住民の総意と協力により作られた経緯と66年の歴史を鑑み、現時点では、これまでの保育所と何ら変わりのない施設型保育所を選択した。

これからは、「教育・保育」の内容も厳しく問われてくることになるが、これまで歴代の保育士が培ってきた一人ひとりを大切にする保育や保護者の意をくみ取り子育てを側面的に支援する保育、また地域に根差した保育所として、今後もこの財産を受け継いでいく。

そのためには、社会の変化に順応した確かな保育の推進が図れるように、私たちも「保育の質」・「従事者の資質」向上と、「情報共有」に日々研鑽を積む必要がある。

保護者とともに

子育てが「楽しかったね」と言えるように

・・・「変わらなくちゃ」・・・



平成 27 年度 第 1 回役員会

5月21日横路保育所において、役員会が開催されました。主な議題は、平成26年度事業報告と、決算について審議を重ね承認された内容は次のとおりです。なお、詳細はホームページにて財務諸表等を公開しています。

平成 26 年度 事業報告書

1. 保育児童数の状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
0才児	7	7	8	9	9	10	10	10	10	10	10	10	110
1・2才児	49	49	48	48	48	49	49	49	49	49	49	49	585
3才児	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	384
4才以上児	62	62	62	62	61	61	61	61	61	60	60	60	733
計	150	150	150	151	150	152	152	152	152	151	151	151	1,812
開所日数	25	24	25	26	26	24	26	23	23	23	23	25	293

2. 一時保育利用者数(延べ人数)の状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
3才未満児	120	144	188	199	141	176	168	142	144	150	166	167	1,905
3才以上児	1	10	32	6	13	14	33	47	83	81	93	114	527
計	121	154	220	205	154	190	201	189	227	231	259	281	2,432

3. 延長保育利用者数の状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
利用者延べ数	146	169	195	215	166	196	226	180	222	184	223	215	2,337



平成 26 年度 社会福祉法人 横路福祉社会

単位:円

貸借対照表

平成 27 年 3 月 31 日

科目	金額	科目	金額
流動資産	23,401,689	流動負債	2,652,976
固定資産	143,673,722	固定負債	6,332,600
		基本金	9,325,625
		国庫補助金等特別積立金	40,806,683
		その他の積立金	68,950,000
		次期繰越活動収支差額	39,007,527
計	167,075,411	計	167,075,411

自 平成 26 年 4 月 1 日

収支決算書

至 平成 27 年 3 月 31 日

科目	金額	科目	金額
人件費支出	91,876,105	保育所運営費収入	114,154,120
事業費支出	17,677,582	その他の事業収入	19,464,599
事務費支出	6,636,434	受取利息配当金収入	47,383
固定資産取得支出	7,776,000	その他の収入	795,080
積立預金積立支出	25,000,000		
当期資金収支差額	△14,504,939		
計	134,461,182	計	134,461,182

平成 26 年度事業報告書

1・事業の概要

- 平成27年度から子ども・子育て支援制度が施行される。新制度では、認定子ども園、幼稚園、保育所、地域型保育と分類されるが、当園では、家庭において必要な保育を受けることが困難な子ども施設型給付の保育所を選択した。幼児教育と保育が一元的に運営できる制度改革ではあるが、これまでと変わらない保育所として、保育のあるべき姿を追い求め実践してきた。また、虐待やひとり親家庭の増加等、子育て環境が大きく変化する中で保護者とともに子どもたちをどう育てていくか、「保護者との連携」に力を入れてきた。時には、家庭環境にも配慮し、子育てに不安を感じる家庭への相談支援等、保育所が地域の子育て拠点として機能発揮できるよう努めた。当保育所は、「保育者の専門性」、「保護者との関係性」、「保育の内容と質」を高めていけるよう日々の保育の実践に努めた。
- 情報公開については、保育内容をはじめ、社会福祉法人横路福祉会の財務内容等をホームページ上に、また、就業規則をはじめ職員の給与規則等については、規定綴りで閲覧可能とするなど、「開かれた保育所」として信頼されるように努めてきた。
- 「食育」については、管理栄養士を配置し、食材については、自然素材を積極的に取り入れる等、取り組みに力を入れている。食物へのアレルギー疾患児童に対しては、保護者からの聞き取りを基に管理栄養士・調理士・保育士が連携してこどもの状況を的確に把握するとともに、写真付き除去確認票で確認する等、給食を安全に提供する体制の強化を図ってきた。保護者に対しても、家庭でできる簡単調理カードを作成配布する等、望ましい食生活のあり方に意を用いてきた。



私が横路保育所で働かせて頂くようになって二年目になりました。私は小さい頃から「将来の夢は保育所の先生」と言っていました。その夢が叶ったという嬉しさと、本当に保育士になれるんだという浮き立つ思い、その反面で本当に自分に「先生」が務まるのかという不安もありました。二年目に突入した今でもこれらの思いは消えません。消えないというより、いつまでもこのときの気持ちは忘れずに留めておきたいと思っています。

昨年は、なにもかも初めてのことばかりで毎日の流れについていくことで精一杯でした。毎日毎日、「そういう事なんだ」「こんな方法もあるのか」と発見の日々でした。二年目に入り今年はずりの先生方に甘えてばかりではなく、より一層保育士である事の自覚と責任を持って行動していかなくてはならないと思っています。しかし今、そのような思いや理想が膨らむ反面、自分への自信のなさや、これでいいのかという不安でいっぱいです。そんな時、私は「将来の夢は保育所の先生」と言っていた頃の気持ちを思い出し、「保育士になりたかったんでしょ」と自分に言いかけます。そして、横路保育所には、優しく声をかけてくださったり、サポートしてくださる周りの先生がいらっしやるおかげで、日々悩みながらも前に進む事ができています。

今とはかく挑戦の毎日ですが、その挑戦に挑む勇気を持って頑張りたいと思います。そして何より、私を「先生」と呼んでくれる子どもたちに感謝する気持ちを忘れることなく、しっかり努めを果たしたいと思います。子どもたちの成長をまじかで感じさせてもらえる保育士という仕事に誇りを持ち、私自身も子どもたちと共に成長していきたいと思っています。



地域交流（横路音頭）



英語教室



体操教室



絵画教室



横路小学校見学



「命」

保育士 本原 みち江

昨年は実父が今年には義父と続けて亡くなり、命について考えることが多かった。

実父は、病気もあり八十六歳の生涯を病院で終えた。

義父は、老衰により九十五歳の生涯を家で終えることができた。家で看取ることが稀になっているこの頃ですが、家族だけではできないことも、ヘルパーさんや訪問看護の人に来てもらうことで安心できた。

「お風呂は入らん」「点滴はせん」と強い口調で言ってもいつも優しく受け止めておられたことに、頭がさがる思いでした。

ある新聞に、「老いなければできないことが増え、自分は用のない人間と生きる気をなくしがちになる『優しさを伝えること』に心を砕き、共にすごし、話し、聞く、触れる、ほめる、感謝する。すると塞いで表情を失った人も満の笑みを浮かべる瞬間がくる。

人は自分に目を向けてもらったと感じたとき生きる力を取り戻すんです」と載っていた。

亡くなってから気づくことが多く、あれもすればよかった、これもと思う。でも、まだ実母八十八歳、義母九十一歳が控えている。これからも、いろいろな人に手伝ってもらいながら天寿をまっとうしてほしい。日々、大切な子どもの命を預かって仕事をしている保育も介護に通じるものがあると思う。

親の介護からの教えとし、こどもの気持ちに寄り添い優しさを伝えていけるよう心がけたい。